

**【海外情報】米国における針葉樹製材の利用促進に向けた組織
(Softwood Lumber Board : SLB) について**

(要旨)

- ・米国農務省は、2011年に、針葉樹製品の普及を目的とする「針葉樹製材協議会 (SLB)」を設立。
- ・SLBは、針葉樹製材の国内製造業者と輸入業者から、年間取引量3.5万m³を超える量1m³当たり約19.3円(0.1758ドル)の課徴金を徴収して、各種の針葉樹製材利用促進プログラムを実施(「チェックオフ制度」の一種)。2020年の予算額は、165億円(1.5億ドル)。
- ・具体的な活動内容は、木造プロジェクトへの技術支援、木材利用の普及活動、木造建築の規格策定など。
- ・これまでの活動により、2012-19年の累計で、針葉樹製材の消費量が1,486万m³以上増加。木造高層建築物でCLTの利用が増加。
- ・2019年は、課徴金1ドルで、針葉樹製材の売上が37.9ドル増加。

1. 経緯

- ・米国では、1996年に、農産品振興・研究・情報法(Commodity Promotion, Research, and Information Act of 1996)を制定。同法により、米国農務省の権限で、農産品のチェックオフ制度設立が可能となった。同法により、落花生、ブルーベリー、はちみつ等の農産品に対して、チェックオフ制度を立ち上げ。
- ・2008年に、米国森林・コミュニティ財団(US Endowment of Forests and Communities : USE)が針葉樹製材に関するチェックオフ制度の導入に関する報告書を公表。以後、同財団の下に設置された「Blue-Ribbon Commission」が制度の導入を検討。
- ・2011年に、米国農務省が、連邦規則「針葉樹製材調査・普及・消費者教育・産業情報規則」(7 CFR Part 1217)に基づき、SLBを設置。

2. SLBの概要

(1) 目的

- ・SLBの目的は、屋外・住宅・非住宅建設における針葉樹製材の利用促進。
- ・木材利用普及、規格開発、意匠・構造分野支援、研究等への戦略的な投資を行

うことにより、針葉樹製品が経済的・環境的観点から選択される素材となることを志向。

(2) 組織の構成

- ・ 協議会は、国内製材業者及び輸入業者から選任された14名（国内製材業者10名、輸入業者4名（少なくとも3名はカナダからの輸入業者））で構成。米国農務省長官により任命され、任期は3年間（最大2期まで）。
- ・ 米国農務省が協議会の運営を監督。

(3) 運用の仕組み：課徴金賦課(チェックオフ制度)

- ・ 課徴金の対象者は、針葉樹製材を国内で生産する製材業者及び米国へ輸入する業者。
- ・ 徴収金額は、各事業者による取引量（※年間3.5万m³（1,500万bf）を超える分のみ）1m³当たり約19.3円（0.1758ドル）。国内製造業者には出荷量に応じて、輸入業者には輸入量に応じて、課徴金を賦課。2020年7月から、輸入業者からは、SLB自体に代わって、税関が課徴金を徴収。
- ・ 対象品目は、針葉樹製材、加工された針葉樹製材、フローリング材（※米国HSコード：4407.1100, 4407.1200, 4407.19-05, -06, -10, 4409.10-05, -10, -20, -90, 4418.99.10）。

(4) 事業内容

- ・ 2020年におけるSLBの事業予算額は165億円（1.5億ドル）。主な予算の用途は以下の通り。
 - ① 転換プログラム（51億円（総額に占める割合：31%）
 - ・ 実施主体：WOOD WORKS
 - ・ 商業施設や集合住宅における針葉樹製品の消費拡大を支援。
 - ・ 専門スタッフを活用して、設計から建設までのプロジェクトをサポート。
 - ・ シンポジウム、ワークショップ、ウェビナーなど実務者向け教育イベントを主催。
 - ② 広告プログラム（43億円（同26%））
 - ・ 実施主体：THINK WOOD
 - ・ 建築家、開発者、エンジニア、商業及び住宅建設請負業者を対象として、住宅、中層建築及び非住宅部門における木材利用を普及。
 - ・ 消費者に対して、建築に使用する材料を選択する前に、ウェブサイト、ブログ、ビデオ、教育プログラム等により、木材利用の長所を伝達。

- ・住宅や商業施設での木材利用に関する移動型展示会等を開催。

③基準プログラム（38 億円（同 23%））

- ・実施主体：AMERICAN WOOD COUNCIL
- ・適切で責任のある木材製品使用を可能にする木材建築の規格・規制、設計ツール、ガイドラインの開発。

④その他（13 億円（同 20%））

3. これまでの実績（抜粋）

（1）2012～2019 年の実績

- ・2019 年年次報告書によると、2012～2019 年における SLB の主な活動実績は、以下の通り。
 - ・2012 年以降の SLB のプログラムにより、国内における針葉樹製材の消費量が累計 1,486 万 m³（63 億 bf）以上増加。車 800 万台の排出量に相当する炭素固定を実現。売り上げは、累計で 24 億ドル増加。
 - ・チェックオフ制度の課徴金 1 ドルで、針葉樹製材の売上が 25.2 ドル増加。
 - ・1,539 のプロジェクトで、建築資材を鉄鋼・コンクリートから木材に転換。
 - ・250 以上の木造高層建築物プロジェクトを実施。米国内で、CLT を用いたプロジェクトが急増（図 1）
 - ・メディアに 85 万回掲載、バーチャル展示会を 17 回開催
 - ・32 州、470 団体、515 工場を支援。

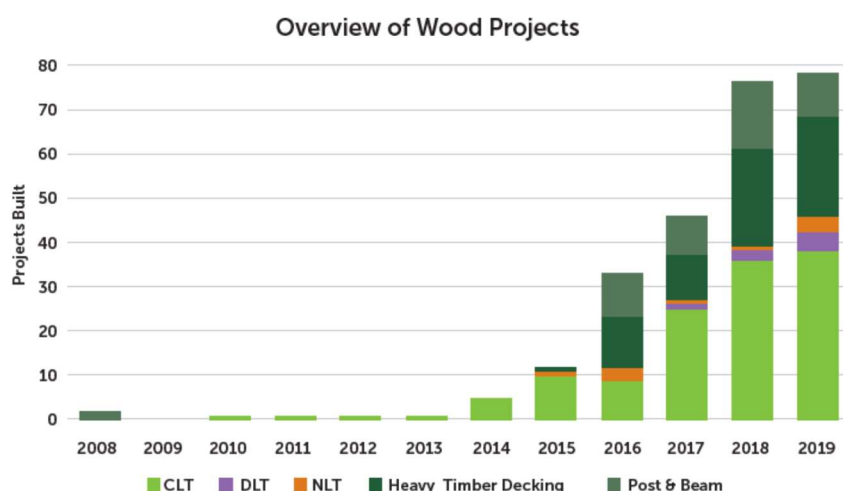


図 1：米国における木造高層建築物プロジェクト数の推移

（2）2019 年の実績

- ・上記実績のうち、2019 年の主な実績は、以下の通り。

- ・ 針葉樹製材の消費量が 342 万 m³ (14.5 億 bf) 増加 (※2020 年における我が国の製材輸入量は 493 万 m³)。
- ・ チェックオフ制度の課徴金 1 ドルで、針葉樹製材の売上が 37.9 ドル増加。
- ・ 351 のプロジェクトで、建設資材を鉄鋼・コンクリートから木材へ転換。対象プロジェクトの階層別内訳を見ると、4～5階建ての複数世帯住居 (Multifamily) が多い (図 2)。
- ・ 18 階建て木造建築物の建設を可能とする建築基準の改正に向けた取組を実施中 (2021 年の改正が目標)。

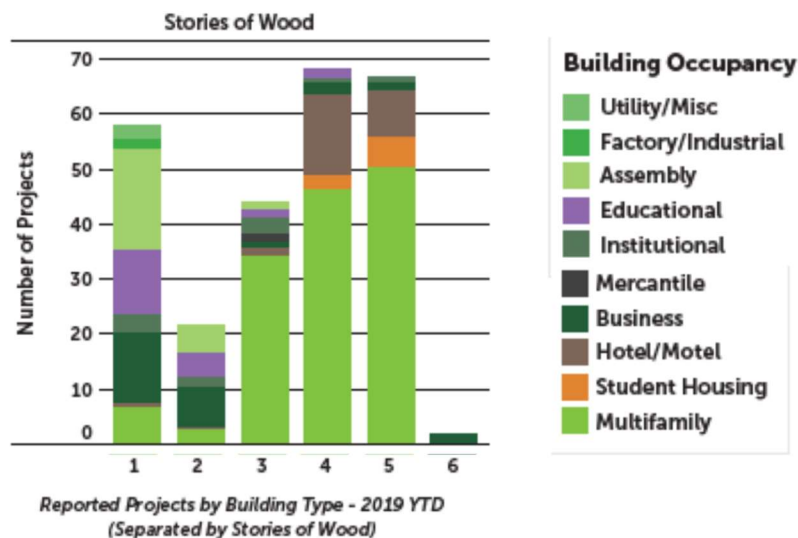


図 2 : 2019 年の階層別用途別木造建築物プロジェクト数

(3) 活動事例

(ア) WOOD WORKS による建築事例

- ・ プロジェクト名 : 1430Q (複数世帯住居)
- ・ 場所 : カリフォルニア州 (2019 年施工完了)
- ・ 構造 : 鉄骨造 (地上 2 階) + 木造枠組壁工法 (地上 3 階～6 階)
- ・ 延べ床面積 : 6.3 万 m²
- ・ 木材使用量 : 1,708m³
- ・ 炭素削減への貢献量 : 計 4,457 トン (内訳 : 炭素固定量 : 1,426 トン + 二酸化炭素削減量 : 3,031 トン)
- ・ 経緯 : 依頼主は、当初、鉄筋コンクリートによる工法による 6 階建て住居を建設する計画していたが、予算面で断念していた。その後、WOOD WORKS に相談した結果、コスト削減可能な木造ハイブリット工法に変更することで、6 階建て住居の建設を実現。

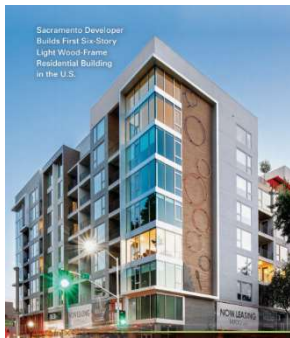


写真 1 : 1430Q の外観



写真 2 : 建設中の様子



写真 3 : 木質化された内装

(イ) THINK WOOD による事例

- ・ プロジェクト名 : Mobile Tour (教育)
- ・ 活動内容 : 米国内各地において、針葉樹製品の利用にかかる環境および経済的価値について、環境教育・普及イベントを展示会形式で開催。針葉樹種毎に木材としての用途を解説、木材が森林から消費者に届くまでの物語を紹介。
- ・ 2019 年は、米国内 6 箇所で計 17 回延べ 7500 人以上の来場者。建築家、ディベロッパー、施工主、政治家、製材業者、素材生産者、起業家、学生等に向けて、木材利用の可能性についての学習機会を提供。



写真 4 : Mobile Tour の様子

(以上)

【参考資料・出典】

農林水産省 平成 30 年度 豚肉チェックオフ制度に関する海外調査委託事業報告書

Softwood Lumber Board

<https://softwoodlumberboard.org/> (2021 年 8 月 30 日最終閲覧)

Softwood Lumber Board

The SLB' s 2019 Annual Report: Generating Demand On Every Level

<https://softwoodlumberboard.org/wp->

[content/uploads/2021/04/SLB_Annual_Report_ENGLISH_2020_DIGITAL-2.pdf](https://softwoodlumberboard.org/wp-content/uploads/2021/04/SLB_Annual_Report_ENGLISH_2020_DIGITAL-2.pdf)